

資質・能力の活用・発揮を意識した年間計画の作成

実践場面

高等学校 1 学年～ 3 学年

「現代の国語，言語文化，現代文B，古典探究の年間計画の作成場面」

ねらい

資質・能力の活用・発揮の視点を取り入れて年間計画を作成することで、既習事項を生かしたり，関連付けたりする授業づくりを定着させ，活用・発揮のサイクルの定着を目指す。

【アイディアのポイント】

年間計画を作成する際に，「この教材で身に付く資質・能力は何か」という視点を取り入れて教材を配置するアイディアです。単元同士のつながりが生まれ，授業のねらいも明確になります。また，「教科書（教材）を教える」から「教科書（教材）で何を身に付けさせるか」へと考え方を転換していくヒントにもなると考えます。

【現代文の場合】

どの教材をいつ教えるか，論説や小説，短歌・詩などのジャンルをバランスよく配置できるか，といった観点が見られる傾向にありますが，そこに資質・能力の活用・発揮という視点を取り入れてみます。

(例) これまでの年間計画イメージ

	単元	育成する資質・能力
4月	随想	作品や文章に表れているものの見方，感じ方を捉え，解釈する。
5月	評論	構成や論の展開を踏まえて内容を把握する。
6月	小説	作品や文章に表れているものの見方，感じ方，考え方を捉え，内容を解釈する。
7月	短歌・詩	作品の内容や解釈を踏まえ，自分のものの見方，考え方を深める。
8月	評論	構成や論の展開を踏まえて内容を把握する。
9月	小説	他の作品と比較しながら文体の特徴について考え，解釈を深める。

年度初めは「随想」，「評論」「小説」は交互に配置することが多い。バランスよく様々な文章に触れられるという利点はあるけれど，意図が明確でない場合も。

同じような資質・能力を，題材を変えて実施していることもしばしば…。

なにか工夫できないかな。



(例) 資質・能力ベースで教材配置を考えてみると

	単元	育成する資質・能力
4月	評論	構成や論の展開を踏まえて内容を把握する。
5月	評論	構成や論の展開について評価し、自分の考えを深める。
6月	随想	文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述をもとに的確に捉える。
7月	小説	語り手の視点や場面の設定の仕方、表現に着目して、内容を解釈する。
8月	評論	文章や図表などに含まれている情報を相互に関連付けながら、自分の考えを深める。
9月	評論	異なる形式で書かれた複数の文章や図表等を伴う文章を読み、書き手の意図を解釈する。

4月、5月は、評論を続けて配置し、比較しながら文章の構造や論理展開の違いについて考えてみよう。

論理的な文章と関連付けたり、随想や小説の特色を比較したりしながら読む単元を設定してみよう。

4月、5月に学習したことを生かしながら、異なる資質・能力の育成も目指そう。

色々なパターンが考えられそうね。



【古典の場合】

「教材を教える」ことに主眼をおいてしまうと、現代語訳中心になるなど授業がパターン化してしまう傾向にあります。古典は、既習事項の活用や単元相互の関連付けがしやすいという側面を生かしてみましよう。

(例) これまでの年間計画イメージ

	単元・教材
4月	(古文) 宇治拾遺物語・児のそら寝 (漢文) 訓読の基本
5月	(古文) 十訓抄・大江山 (漢文) 故事成語
6月	(古文) 徒然草・奥山に猫また (漢文) 故事成語
7月	(古文) 竹取物語・なよ竹のかぐや姫 (漢文) 鶏口牛後
8月	(古文) 伊勢物語・芥川 (漢文) 臥薪嘗胆
9月	(古文) 平家物語・基礎の最期 (漢文) 漢詩

「どの教材で」「どのような資質・能力」を育成するか焦点化されていないと、授業が画一的になってしまうこともしばしば。

単元同士の関連があまり意識されていなかったり、古文と漢文は「別の学習」として分けて行われていることも。

既習を生かすことのできる配置にしていけば効率もいいはず。



(例) 資質・能力ベースで教材配置を考えてみると

	単元・教材	育成する資質・能力
4月	(古文) 宇治拾遺物語・児のそら寝 (古文) 十訓抄・大江山	・用言、助動詞の活用。 ・作品や文章に表れているものの見方、考え方を捉え、内容を解釈する。
5月	(漢文) 訓読の基本 (漢文) 故事成語	・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解する。
6月	(古文) 竹取物語・なよ竹のかぐや姫 (古文) 伊勢物語・芥川	・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深める。
7月	(漢文) 漢詩 (古文) 枕草子・ありがたきもの	・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉える。
8月	(古文) 平家物語・木曾の最期 (漢文) 鶏口牛後	・作品や文章に表れているものの見方、考え方を捉え、内容を解釈する。

興味をもちやすい内容の教材を用いて、活用を中心に学習してみよう。

4月に学習した文語のきまりや活用を意識して、漢文訓読に取り組みさせてみよう。

思い切って時代順に学習してみよう。既習を生かせれば解釈にも深まりが出てくるかもしれない。

比較できそうな作品を並べて学習することは可能かな。

授業にも目的意識が生まれそう。



(例) この他の視点として

【単元の配置の工夫にいきる関連付けのヒント…「近代」】

単元	教材	共通するテーマと学習活動
評論	「である」ことと「する」こと	前近代と近代を対比しながら、筆者の主張を考える。
小説	こころ	前近代と近代の狭間で生きた主人公の苦悩から、作品のテーマに迫る①
小説	舞姫	前近代と近代の狭間で生きた主人公の苦悩から、作品のテーマに迫る②
短歌・詩	わたしが一番きれいだったとき	近代がもたらした「戦争」の惨禍から人の生き方を考える。

共通するテーマをもつ作品をまとめておくことで、授業の導入等で前に学習した単元を想起させる質問ができたり、単元相互の関連性を踏まえた学習活動を設定したりすることもできそうですね。

【単元の配置の工夫に生きる関連付けのヒント…「ジャンル」】

単元	教材	ジャンル
古文	平家物語	日本の軍記物語
漢文	三国志と三国志演義	中国の歴史書、歴史小説
古文	大鏡	日本の歴史物語

ジャンルに着目すると、作品相互の特徴を比較して、多様な解釈につなげたり、深い読み取りにつなげたりすることもできそうですね。



【研修講座の演習の様子】



①所属校の年間指導計画を持参し、自校の計画の特徴や工夫されているポイントについて分析しました。分析内容を受講者の先生方同士で紹介をしている様子です。



②お互いに気付いたことを共有したり、情報交換をしたりしている場面です。

③この後、ワークシートをもとに、「資質・能力の活用・発揮」という観点で、改善できる点を検討してもらいました。

【研修講座の感想から】

- 他校の年間計画を見せてもらう機会はなかなかないので参考になりました。各校の特色が出ていると思いました。
- 年間計画をみると、同じような資質・能力の獲得を目標に掲げて学習している場合が多いことが分かりました。前後の単元との関連も考えていく必要があると思いました。
- 他教科の年間計画を見せてもらい、他教科の指導内容と関連付けて検討することも必要かと思いました。座学以外にも、工業や農業の実習と関連付けることで学びが深まる可能性があると思います。
- 系統性を意識することがこれからは大切だと考えました。また、こうした計画を実践していくためには、チームの連携も重要だと思います。
- 修学旅行やインターンシップなどの学校行事と関連付けて計画していくこともできると思いました。学校の特色が大きい高等学校では、特色ある授業づくりができると思います。